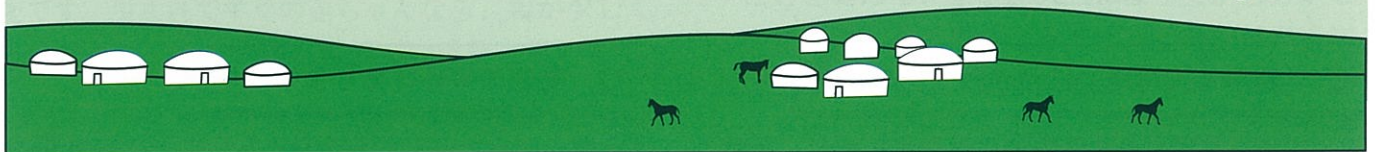


NPO法人  
子どもセンター / パオ  
**Newsletter**

vol.26

「ぴあ・かもみーる」日記 ●  
赤ちゃん縁組について ●  
ボランティア講座のご報告 ●



パオの  
現いま

## 「ぴあ・かもみーる」日記 ⑦

う～ん、今夜の献立はなんだろう…。

ぴあ・かも（ステップハウス「ぴあ・かもみーる」）に行くときには、いつもドキドキ！実は、私は料理が得意ではないのです。長年フルタイムで仕事をしてきたため、土日以外は同居の母に頼ることが多く、自分が調理する時は慣れたメニュー「お母さんの、30分料理！」と言われたものです。

パオで泊まりのお手伝いをするようになって4年。月に2回だけ朝晩の食事を作りいっしょに食べる、ただそれだけのお手伝いです。当初初めて会う子どもたちとどう接したらいいのか、とても緊張していたことを思い出します。でも、何人もの子どもたちに出会ってきて「普通でいい」ということを学びました。緊張するのは「どんな、おばさんなんだろう」って思っている子どもたちのほうだったのかもしれないですね。

ぴあ・かもでの夕食の献立は1カ月単位で決まっています。そのメインメニューに合わせて作るのですが、私の知らない（作ったことのない）メニューも続出。レシピ本を広げ、何度も何度も振り返りながら作ります。「レシピ通りに作れば、味は間違いないんだから」と、子どもに慰められることもしばしばです。

副菜、汁物は何にしようかと冷蔵庫の野菜室をのぞき、定番の胡麻和えやおひたしに、簡単なサラダ、味噌汁。でも子どもたちにうけたときは密かに“やったあ～！”とほくそ笑み、残されることがかなりの繰り返し。若い人たちの好きなものはなんだろうと思案しながら、朝ご飯も

しっかり食べて、食べ物や食べることを大切にできる大人になって欲しいと願って悪戦苦闘しています。とはいうものの、私にとってはご飯を作っておしゃべりをしながら一緒に食卓を囲むのは、何よりも楽しいひとときなのです。子どもたちのお手本にならなければとか、いい大人を見せなければということにはちょっと無理。ありのままの私として接するしかできません。自立に向けてのサポートは弁護士やスタッフの方々にお任せして、私は楽しい一晩を過ごすことにしています。

スタッフから受けた引き継ぎ事項をしっかり聞くこと。それ以上のことも以下のこともありませんが、もちろん、それぞれの背景を知っておくことは重要だとは思いますが、ボランティアの立場は“踏み込みすぎないこと”と“子どもたちとの時間を大切にすること”と思っています。

若い子どもたちとの時間は、今どきの情報の泉。いろいろ教えられています。おかげで音楽や流行の端くれを垣間見ることができ、これもまたいい刺激になっています。結局、ぴあ・かもでのお泊りボラは、私のエネルギー（若さ？）の源なのです。若い人たちのことをなんでも知りたがる、好奇心いっぱいのおばさんボランティアでした。（ボランティアスタッフT）

